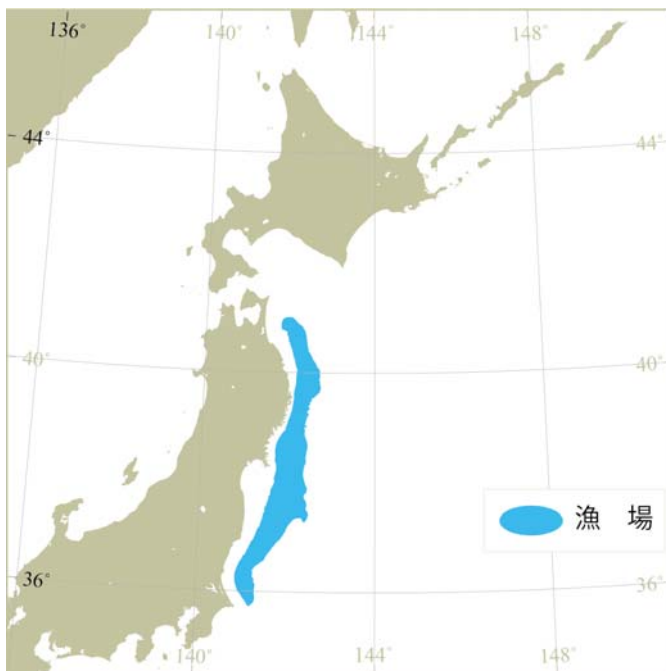




サメガレイ太平洋北部 令和元年度資源評価結果

1

生物学的特性



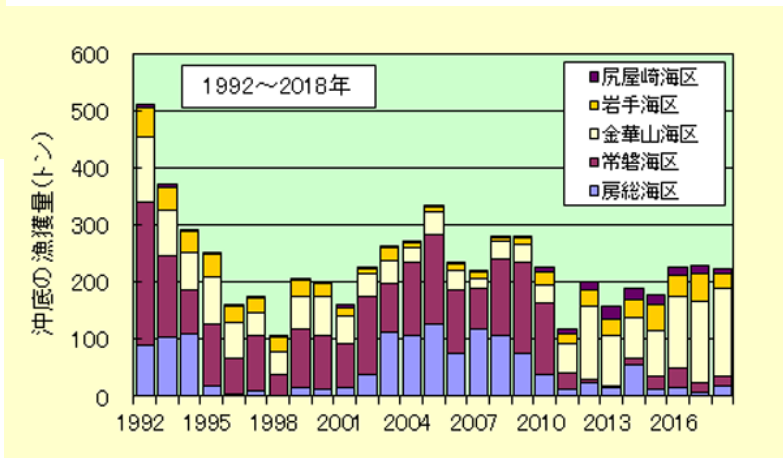
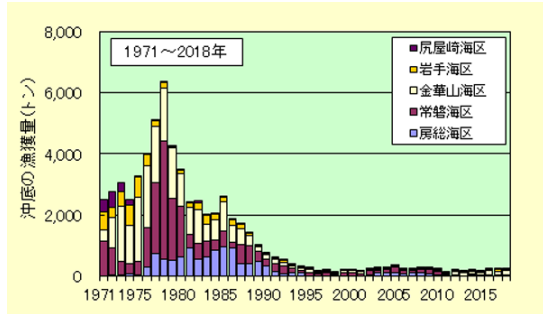
生物学的特性

- 寿命: 雄15歳、雌22歳
- 成熟開始年齢: 雄2歳(一部)、3歳(ほぼ100%)、雌3歳(一部)、4歳(ほぼ100%)
- 産卵期・産卵場: 1~2月、水深600~900mの深海域
- 食性: クモヒトデ類
- 捕食者: 不明

- 漁獲は、沖合底びき網漁業(沖底)の禁漁期(7~8月)を除くほぼ周年
- 主に沖底により漁獲される。

2

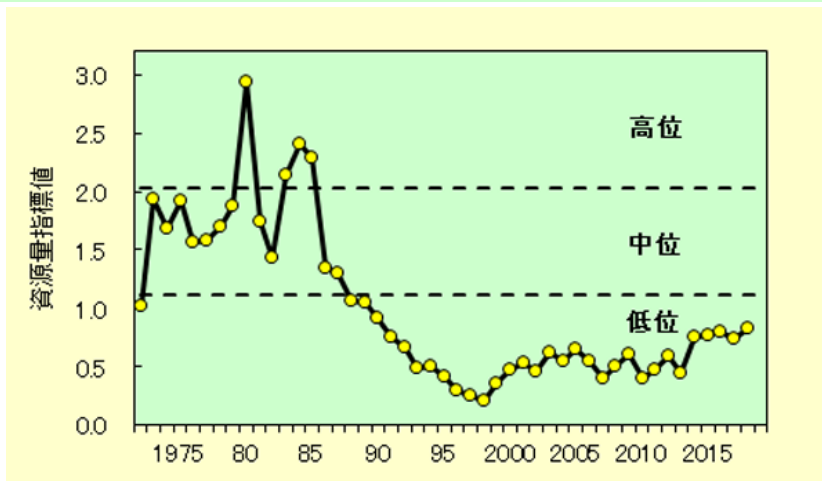
漁獲の動向



● 2018年の漁獲量：沖底224トン、全漁業種242トン
 （暫定値）

3

資源の動向



※水準区分 低位／中位：資源量指標値の最高～最低値の下位3分の1に相当する1.11
 中位／高位：資源量指標値の最高～最低値の上位3分の1に相当する2.02

● 資源量指標値（標準化CPUE※）：資源水準を反映する指標値
 であり、2018年は0.82

● 資源水準：資源量指標値が1.11を下回るため、「低位」

● 資源動向：過去5年間の資源量指標値の推移から「横ばい」

※標準化CPUE：金華山海区以南のトロール漁船の有漁網数あたり漁獲量（CPUE）
 より月、海域、操業水深などの影響を除去したもの

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は横ばい
- 2014年以降は漁獲物の大部分が大型魚であり、小型魚の加入が少ない状況が続いている。

2020年ABC表

管理基準	Target/Limit	2020年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの 増減%)
0.7・Cave3-yr・1.02	Target	140	—	—
	Limit	180	—	—

0.7 : 資源水準が低位水準である場合の推奨値

Cave3-yr : 2016～2018年の平均漁獲量

1.02 : 資源量指標値の推移から算出



キチジ太平洋北部 令和元年度資源評価結果

1

生物学的特性



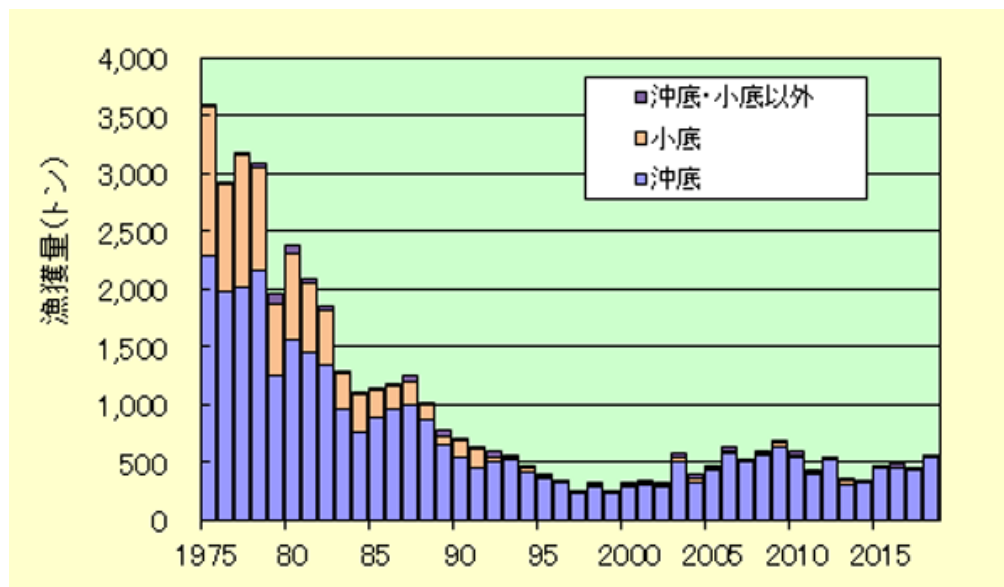
生物学的特性

- 寿命：20歳程度
- 成熟開始年齢：雄5歳(100%)、雌10歳(11%)、11歳(35%)、12歳(69%)、16歳(100%)
- 産卵期・産卵場：1～4月、青森県～茨城県の太平洋岸沖全域
- 食性：エビ類、オキアミ類、クモヒトデ類、端脚類、多毛類、魚類
- 捕食者：マダラ、アブラガレイ

- 漁獲は、沖底の禁漁期(7～8月)を除くほぼ周年
- 沖底による漁獲が90%以上

2

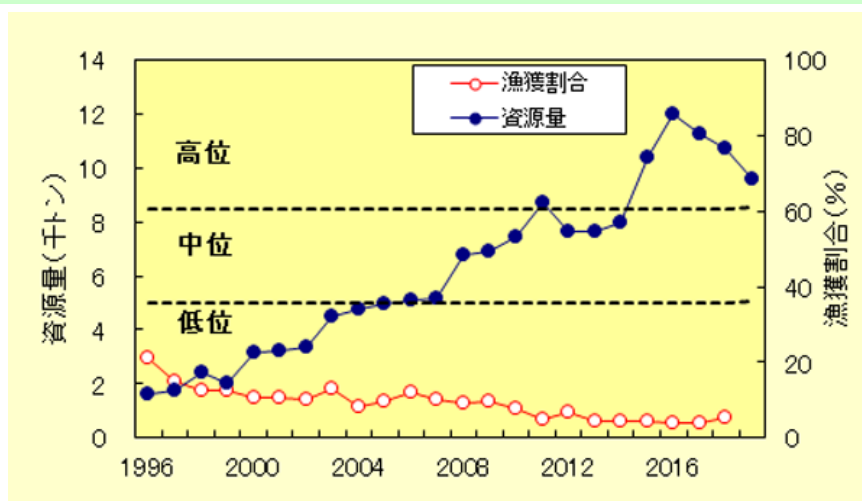
漁獲の動向



● 2018年の漁獲量：559トン(暫定値)

3

資源の動向①

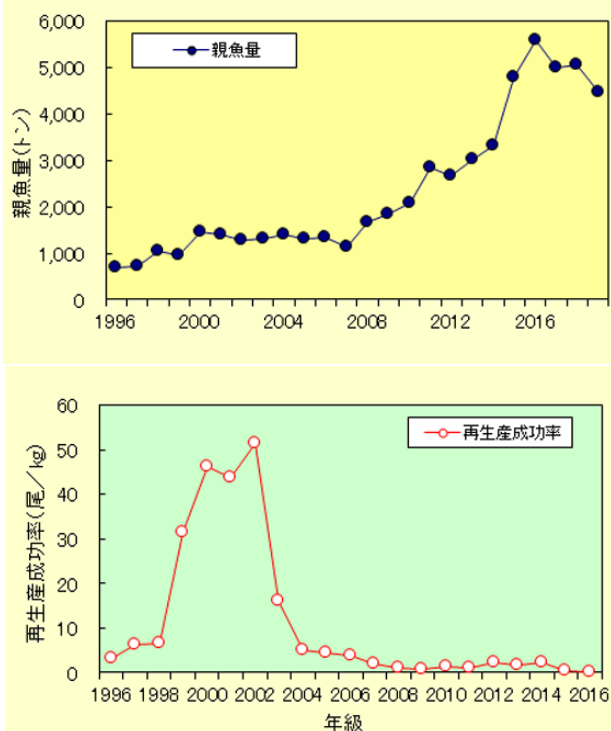


※水準区分 低位／中位：資源量の最高～最低値の下位3分の1に相当する5,081トン
 中位／高位：資源量の最高～最低値の上位3分の1に相当する8,551トン

- 資源量(トロール調査により推定)：2019年は9,601トン
- 資源水準：資源量が8,551トンを上回るため、「高位」
- 資源動向：過去5年間の資源量の推移から「減少」
- 漁獲割合(漁獲の強さを表す指標)：漁獲割合は減少傾向にあり、低い水準で推移。

4

資源の動向②



- 親魚量：資源量と同じく、親魚量も増加している。
- 再生産成功率：2004年級群以降の再生産成功率は低い。

5

資源評価のまとめ

- 資源水準は高位、動向は減少
- 2019年の資源量は9,601トン
- 2004年級群以降の再生産成功率は低い状態が続いている。

2020年ABC表

管理基準	Target/Limit	2020年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
1.0F40%SPR	Target	360	4.3	0.047 (-4%)
	Limit	450	5.3	0.058 (+20%)

1.0：資源水準が高位水準である場合の推奨値

F40%SPR：適切な親魚量を確保する漁獲シナリオ

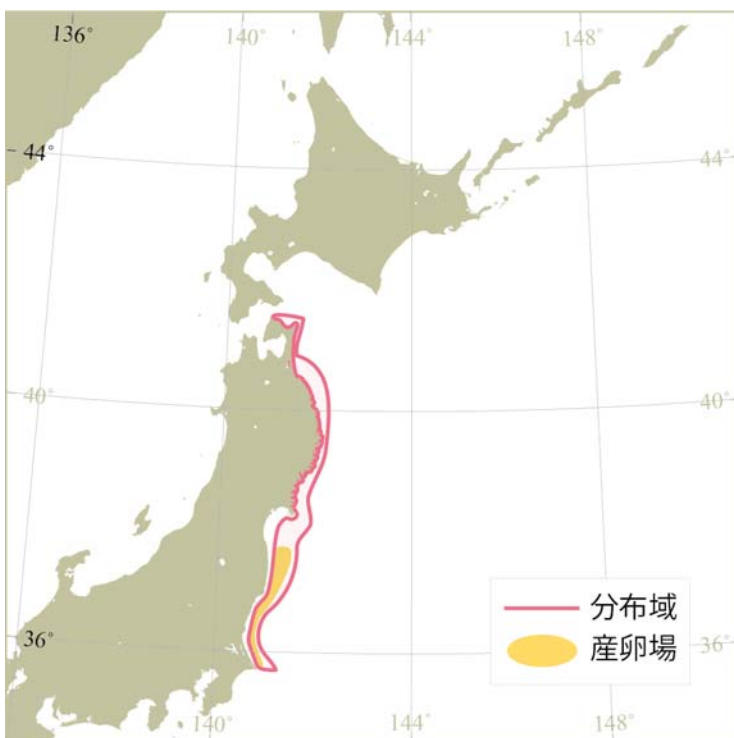
6



ヤナギムシガレイ太平洋北部 令和元年度資源評価結果

1

生物学的特性



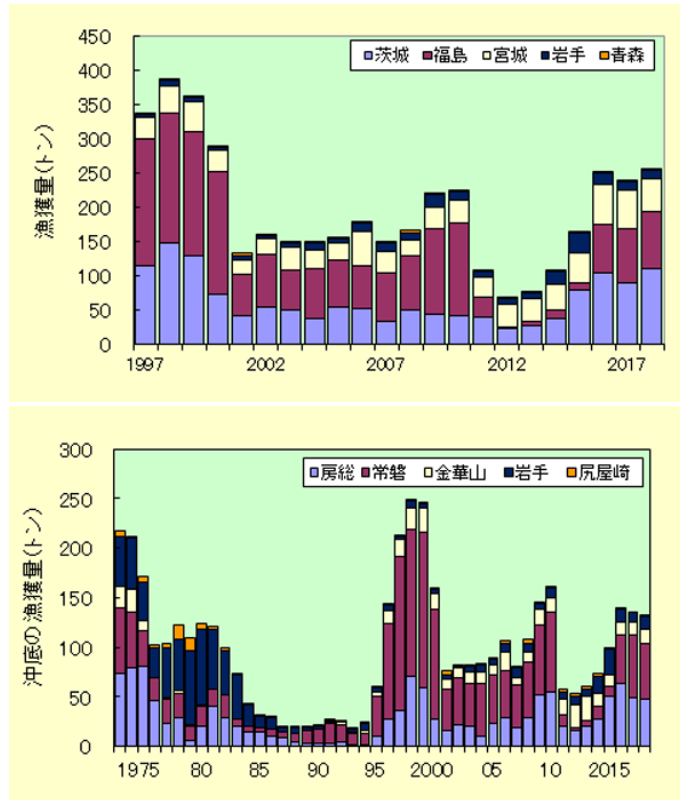
生物学的特性

- 寿命：雄6歳、雌20歳（ほとんどは10歳以下）
- 成熟開始年齢：雄：2歳（ほぼ100%）、雌：2歳（一部）、3歳（100%）
- 産卵期・産卵場：福島沿岸では1～6月、盛期は1～3月、水深100m前後の沿岸各地
- 食性：多毛類と甲殻類
- 捕食者：不明

- 漁獲は、沖底・小底の禁漁期（7～8月）を除くほぼ周年
- 主に沖底・小底により漁獲される。

2

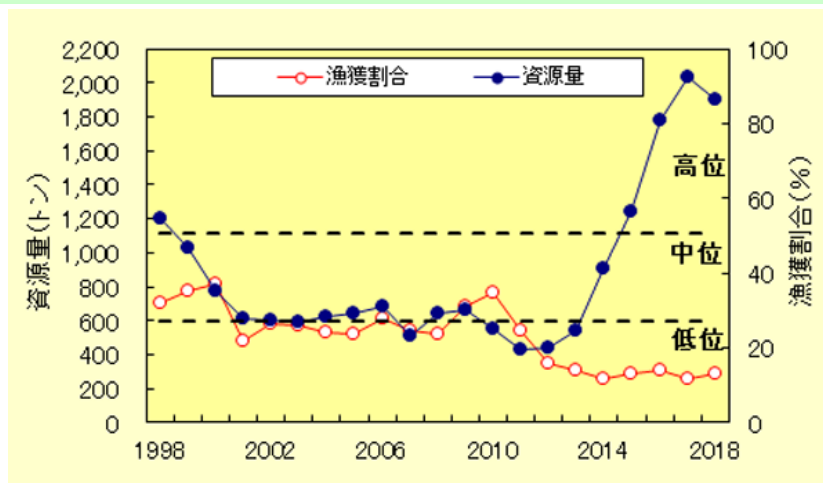
漁獲の動向



● 2018年の漁獲量：254トン(暫定値)

3

資源の動向①

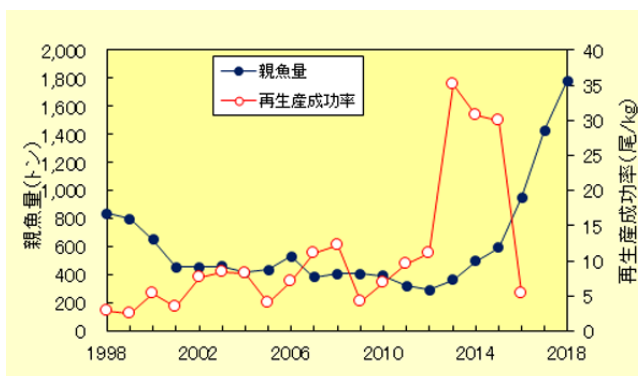
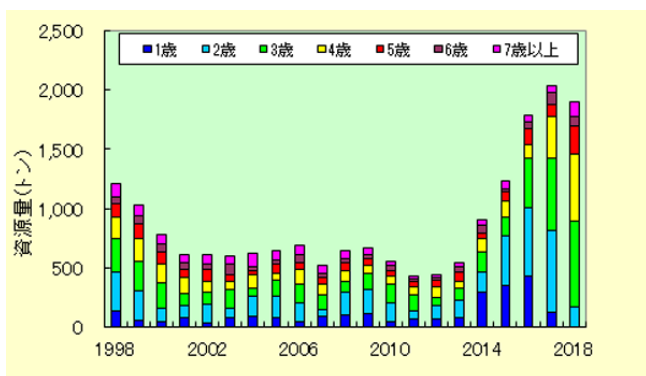


※水準区分 低位／中位：平均値より30%少ない資源量596トン
中位／高位：平均値より30%多い資源量1,192トン

- 資源量（コホート解析により推定）：2018年は1,904トン
- 資源水準：資源量が1,192トンを上回るため、「高位」
- 資源動向：過去5年間の資源量の推移から「増加」
- 漁獲割合（漁獲の強さを表す指標）：漁獲割合は震災の影響で減少し、2018年には13%になっている。

4

資源の動向②



- 2018年には3～5歳魚が多い。
- 親魚量：資源量と同じく、親魚量も増加している。2018年は1,860トン
- 再生産成功率：2013～2015年は高いが、2016年は低い。

5

資源評価のまとめ

- 資源水準は高位、動向は増加
- 2018年には3～5歳魚が多い資源構造となっている。
- 2018年資源量は1,904トン、親魚量は1,860トン

2020年ABC表

管理基準	Target/Limit	2020年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
Fcurrent	Target	332	18	0.24 (-20%)
	Limit	401	22	0.30 (±0%)

Fcurrent：現状の漁獲圧を維持する漁獲シナリオ

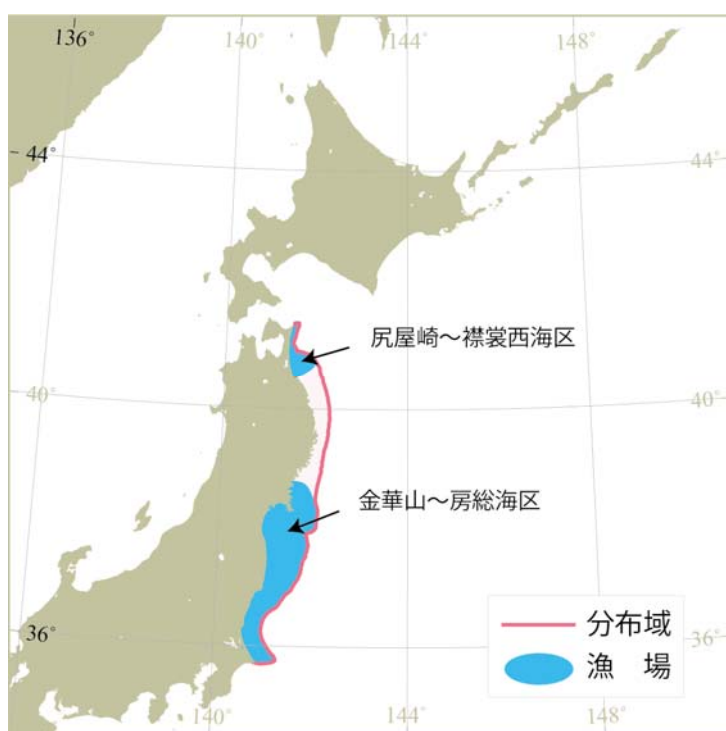
6



キアンコウ太平洋北部 令和元年度資源評価結果

1

生物学的特性



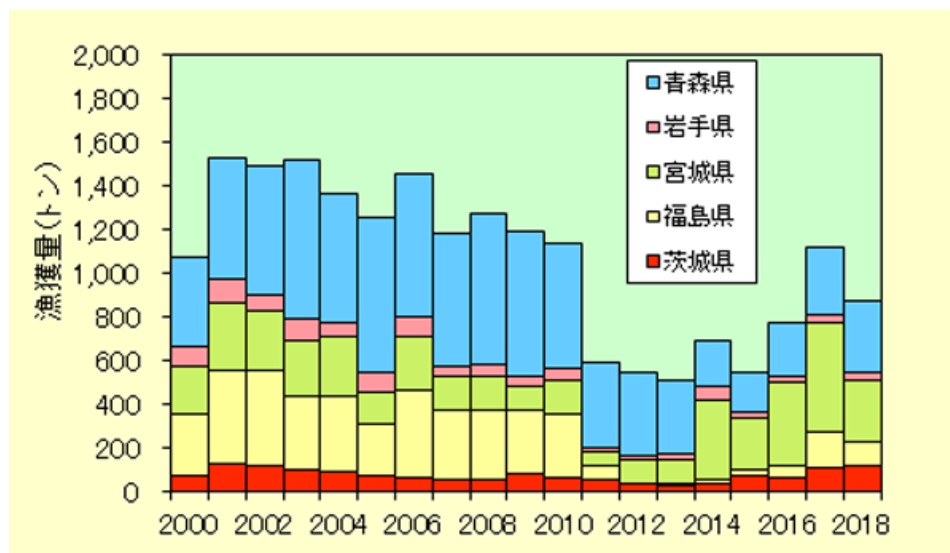
生物学的特性

- 寿命：不明
- 成熟開始年齢：不明
- 産卵期・産卵場：5～6月（津軽海峡東部沿岸）、5～7月（仙台湾周辺）、4月から遅くとも8月（福島県中部海域）
- 食性：小型個体は小型魚類や甲殻類、成長につれカレイ科魚類、タラ科魚類、イカナゴ、ギンアナゴ、カタクチイワシ、スルメイカ、トラザメなど
- 捕食者：ミスウオ

- 漁獲はほぼ周年
- 2018年は沖底で53%、小底で17%、その他で30%を漁獲。

2

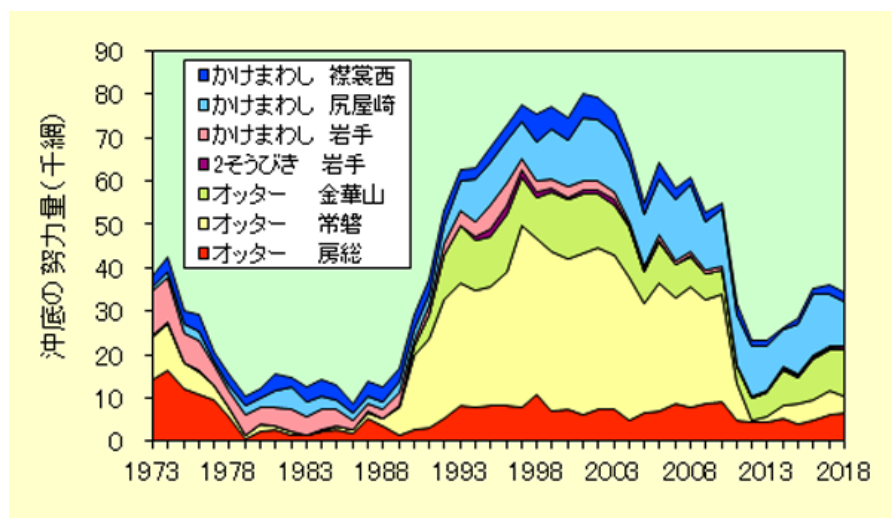
漁獲の動向①



● 2018年の漁獲量：869トン

3

漁獲の動向②

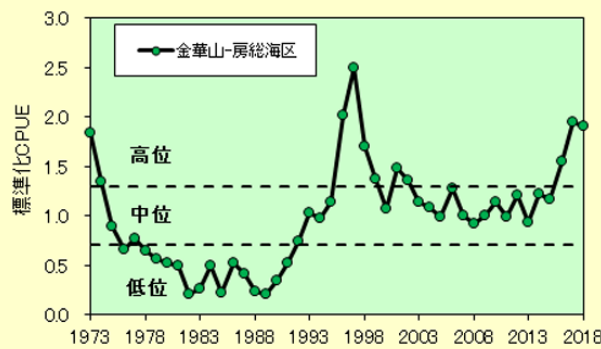
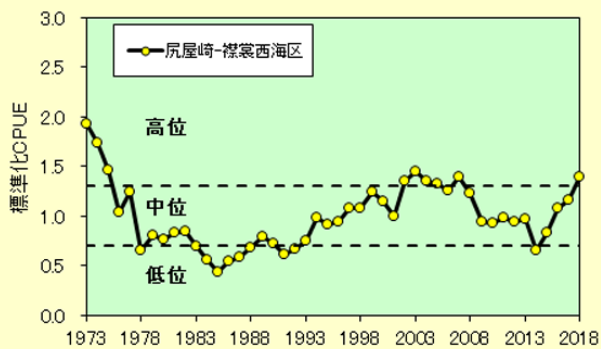


● 漁獲努力量：2001年以降、減少傾向となり、2011～2012年に震災の影響で大きく減少。

● その後は増加に転じ、2018年は34.4千網。

4

資源の動向



※水準区分 低位／中位：資源量指標値0.7、中位／高位：資源量指標値1.3

- 尻屋崎～襟裳西海区と金華山～房総海区にわけて資源状態を判断
- 資源量指標値(標準化CPUE※)：資源水準を反映する指標値であり、2018年は、尻屋崎～襟裳西海区で1.397、金華山～房総海区で1.904
- 資源水準：両海域とも「高位」、全体でも「高位」
- 資源動向：過去5年間の資源量の推移から、両海域とも「増加」、全体でも「増加」

※標準化CPUE：尻屋崎～襟裳西海区のかけ回しの沖底CPUE（年間漁獲量/年間有漁網数）と金華山～房総海区のオッタートロールの沖底CPUEより月、海域、操業水深などの影響を除去したもの 5

資源評価のまとめ

- 資源水準は高位、動向は増加
- 尻屋崎～襟裳西海区、金華山～房総海区は両海区とも資源水準は高位、動向は増加

2020年ABC表

管理基準	Target/Limit	2020年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
1.0・尻屋崎～襟裳西海区Ct・1.131	Target	940	—	—
1.0・金華山～房総海区Ct・1.097	Limit	1,180	—	—

1.0：資源水準が高位水準である場合の推奨値

尻屋崎～襟裳西海区Ct：2018年の青森県と岩手県の漁獲量の合計値

金華山～房総海区Ct：2018年の宮城県と茨城県の漁獲量および

2008～2010年の福島県の平均漁獲量の合計値

1.131、1,097：資源量指標値の推移から算出



マダラ北海道太平洋 令和元年度資源評価結果

1

系群名の変更について



【昨年度】

「マダラ北海道」の
資源評価報告書の中
で4つの海域に分けて
資源評価を行った



【今年度】

海域ごとに資源評価
報告書を作成した

2

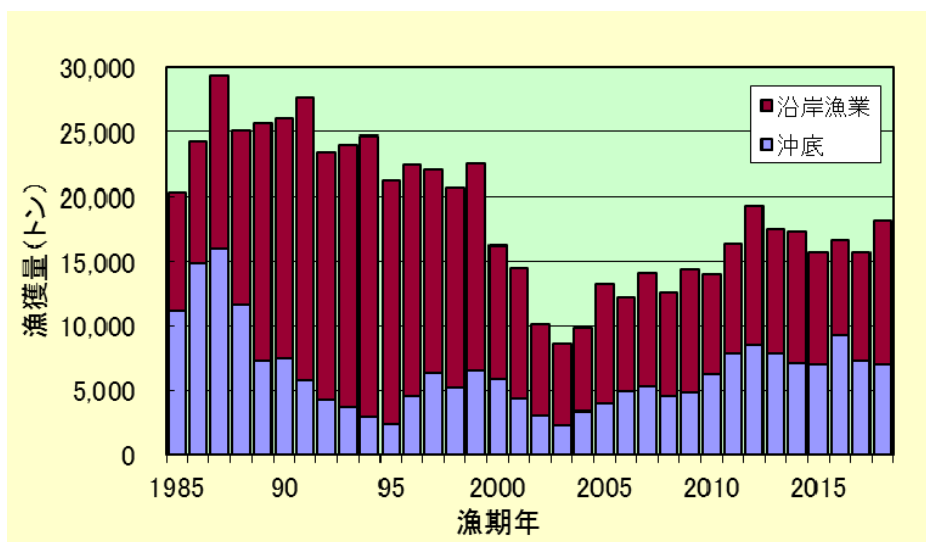
生物学的特性



- 寿命: 6歳以上
- 成熟開始年齢: 雄3歳、雌4歳
- 産卵期・産卵場:
12月下旬～翌年3月、
分布域全体に散在
- 食性:
漂泳生活をしている幼稚魚期
は主にカイアシ類、
底生生活に入ってからには主に
魚類、甲殻類、頭足類、貝類
- 捕食者: 海獣類

3

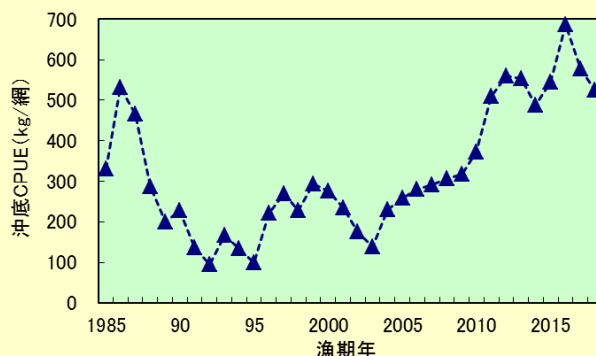
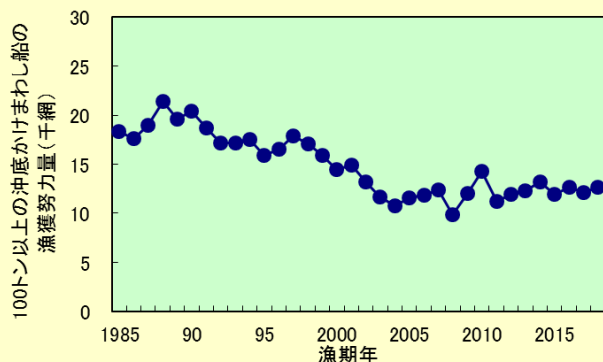
漁獲の動向①



- 2018年漁期(4月～翌年3月)の漁獲量: 1.81万トン
- 沖合底びき網漁業(沖底)の割合は4割程度、
沖底漁獲量の9割強は100トン以上のかけまわし船

4

漁獲の動向②



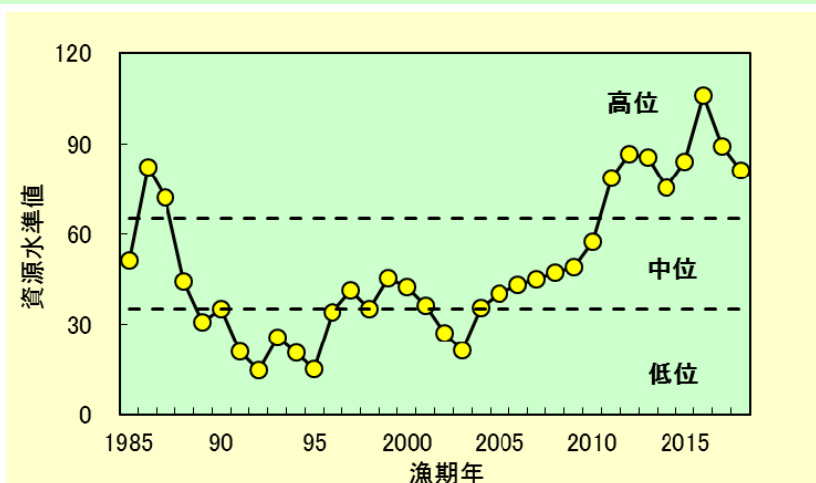
- 100トン以上の沖底かけまわし船の漁獲努力量※は1980年代後半以降減少して2002年漁期以降ほぼ横ばい
- 100トン以上の沖底かけまわし船によるマダラのCPUE※ (沖底CPUE) は2011年漁期以降高水準

※漁獲努力量：マダラの漁獲があった操業（有漁操業）の曳網回数

※CPUE：有漁操業の1網当たり漁獲量

5

資源の動向



※水準区分

1985年漁期以降の沖底CPUEの平均値を50とした場合における各年の沖底CPUEの値(資源水準値)を算出して、65以上を高位、35以上65未満を中位、35未満を低位とした。

● 資源水準：2018年漁期の資源水準値は81であり、「高位」

● 資源動向：直近5年間の資源水準値の推移から「横ばい」

6

資源評価のまとめ

- 資源水準は高位、動向は横ばい
- 沖底CPUEに基づいて資源状態を判断した

2020年漁期ABC表

管理基準	Target/Limit	2020年漁期ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
1.0・Cave3-yr・0.87	Target	116	—	—
	Limit	146	—	—

1.0 : 資源水準が高位水準である場合の標準値

Cave3-yr : 2016～2018年漁期の平均漁獲量

0.87 : 資源量指標値の推移から算出

7